

月の影で息継ぎを

萩原 伸次

- プロローグ おつかい
- 一 カメラ
- 二 忠臣蔵ブルース
- 三 青空デイジー
- 四 ダイニングキッチン
- 五 豊の午後
- 六 桃
- 七 席替え
- エピローグ 月の影で息継ぎを

プロローグ おつかい

青白く光を放つ世界に、幾人かの男女が迷い込んだ。例に漏れず、彼らはその生の在り方に迷うのだろうし、悩むのだろう。

昔、神から授かったかもしれない天命を求め、彷徨い歩く者たち。ひとり消え、またひとり消え、やがて誰もいなくなる。

無造作に広がる世界。

世界の広さに戸惑うように、少女が現れる。手には買物かご。

少女（辺りを見回す）二丁目。私の知らない世界。私
が生まれる前から広がっていた世界。パパとママが
出会う前、きつと、人と神様が出会う前から、世界
はここにあったの。道が出来て、家が建って、町に
なって。私が生まれた時にはもう、…誰？

気配を感じて振り返る、が、誰もいない。

少女 …。私が生まれた時にはもう、何もかも出来上
がっていた。随分と高みから人を見下すビルとか、
よく分からない決まり事とか。そうだ。そうだった
謎を解き明かすため、今、私は行くんだ。負けちゃ
駄目。私、きつとそういう風に生きていくんだから。

少女を見守るような人影に光。

レポーターA 世田谷区在住、エリコちゃん5歳が今、

元氣良く家を出ました。果たしてエリコちゃんはおつかいを終え、無事おうちに戻れるでしょうか？
火曜ファミリースペシャル「はじめてのおつかい」、スタートです。

逆の袖から、よぼよぼと老婆が現れる。

少女 あの。

老婆 はい？

少女 (紙切れを取り出し)これ。

老婆 。

少女 探してるの。

老婆 お買い物かい、ひとりで？

少女 はじめてのおつかいの。

老婆 ああ、このお店ね、これならね、あの、踏み切

りの向こう、タバコ屋さんあるだろ？ その角を曲

がってすぐだよ。

少女 本当？

老婆 え？

少女 本当にそこ？

老婆 …その角を曲がると、消防署に出るよね？ 右

手側に小さな花屋さんがあるだろ？ その隣が本

屋さん。本屋さんの脇を真っ直ぐ行つた角。そこで。

少女 …。

老婆 …いや、もつと先。全然先。結構歩くよ。休

憩しなくて平気かい？

少女 若いから。

老婆 通りを真っ直ぐ行くとね、そこは長いトンネル

だ。これ、入っちゃ駄目だよ。迷子になっちゃうか

らね。手前で右。するとそこにそびえ立つお城が見

えるね。入っちゃおう、中。パーティ。盛大なパー
ティしてるから、そこで。もう後はやぶれかぶれ。
夜通し飲み明かすが良いわ。

少女 おばあちゃん。

老婆 うん、ごめん。おばあちゃん、分からない。

少女 やつぱりね。みんなそう。みんな分からないつ

て言うの。この地図、間違ってるのかな？ …ま、

いつか。この通り行こ。

老婆 ごめんね。

少女 ううん、ありがと。

老婆 お嬢ちゃん、ところでね(紙を取り出し)これ、

どこだか分かるかい？

少女 え？ …うーん。

老婆 分かんないかい？ (激しく咳き込む)

少女 (困っておろおろして)大丈夫？

老婆 いや、心配ない。おばあちゃんもね、実は探し

ててね。悪かったね。じゃあ、お嬢ちゃん、気を付

けてね。

少女 おばあちゃんも。

二人、それぞれに歩き出す。

老婆を見守るような人影に光。

レポーターB 足立区在住、ふさのさん87歳が今、家
を出ました。ふさのさんは昨年脳梗塞で倒れたばか
り。果たして今一度、無事家に帰ることが出来るで
しょうか？ 火曜ヒューマン・ドキュメント「最
期のおつかい」、スタートです。
少女 あれ？
レポーターA おやおや、エリコちゃん？

少女 違う。

レポーターA どうしたのかな、エリコちゃん。

少女 …。(辺りを見回す)

レポーターA 周りをよく見て。

老婆 あれ？

レポーターB おやおや、おばあちゃん？

老婆 違う。

レポーターB どうしたのかな、おばあちゃん。

老婆 …。(自分を見回す)

レポーターB 自分をよく見て。

少女 あ。

レポーターA 分かったかな？

少女 さっきの角だ。

レポーターA そう！ 二つ目の角を曲がるんだよね。

老婆 あ。

レポーターB 分かったかな？

老婆 さっきのシャツだ。

レポーターB そう！ 二人目の孫のシャツだよ。

少女 (走り出す)

レポーターA しっかりね、エリコちゃん。

老婆 (照れる)

レポーターB しっかりね、おばあちゃん。

買い物かごを置いて行ってしまふ少女。

少女 あれ？

レポーターA ほらほら、エリコちゃん、何か忘れて

ない？

老婆 あら？

レポーターB ほらほら、おばあちゃん、何か外れて

ない？

少女 あ。

レポーターA 「そう言えば」。

老婆 あ。

レポーターB 総入れ歯。

レポーターA 走って走って。

レポーターB はめてはめて。

レポーターA 危ないよ、急ぐと。

レポーターB 噛めないよ、外すと。

レポーターA あれあれ何？

レポーターB おれおれ詐欺。

レポーターA タクシー来てるよ。

レポーターB タンス預金盗られたよ。

レポーターA 曲がる車に気を付けて。

レポーターB 孫のふりに騙されて、

レポーターA 横断歩道渡ろう。

レポーターB 相談したのが拓郎？

レポーターA 右見て左見て。

レポーターB みじめで、被害者で。

レポーターA もう一回右見て。

レポーターB 老人会ぐるみで、

レポーターA 信号、青だね。

レポーターB 心臓病だね。

レポーターA さあ、渡ろう。

レポーターB 三途の川を。

遠い目の老婆。

レポーターA エリコちゃん、ちゃんとママとの約束守るんだよ。(時間を見て)おっと、その前に、

レポーターB 最初のおつかい、
レポーターA 覚えてるかな？

気付き、前を向く二人。

レポーターA・B そうそう。

少女 本日はご来場、誠にありがとうございます。

老婆 本人は戸籍上、誠の母にあたります。

少女 上演に先立ち、いくつかのお願いがございます。

老婆 じいさんが先立ち、いくらかの遺産がございま

す。

少女 ケータイ電話、

老婆 経済面で、

少女 ポケットベルなど、

老婆 ばやいているけど、

少女 音の出るもの、

老婆 嫁の食い物、

少女 これらの電源をお切り下さい。

老婆 コリアの料理をお食べ下さい。

少女 どうぞ最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

老婆 どうか最後位ゆっくり拝ませて下さい。

亡き夫の位牌に手を合わせる老婆。

エリコを見守るマキオ(弟)が現れる。

マキオ、エリコを見ている。

雨。

突然の雨に、彼ら皆、散り散りになる。

やがてエリコ達、消えてしまう。

ひとり残されるマキオ。

雨は降り続ける。

暗転。

一 カメラ

ハイキング風の家族。父、母、娘。そして腰の曲がった祖母。

小高い丘にて、

母 お義母さん、こっちこっち。

父 いやあ、いい空気だ。

娘 パパ、すごいよ。ほら。

父 森だ。森、これ全部森だぞ。

娘 おうちがあんなに小さく見える。すごいすごい。

母 こらこら。はしゃがないの。

父 全く。昨日はあんなに泣いてたくせに。

母 ほんどね。でも良かったわね、いいお天気で。この子も、喜んでくれて。

祖父 サチコさん、ちよっと。

母 あらあら、お義母さん、大丈夫ですか？

祖母 すまないけど、あれ、出してもらえないかい？

母 はいはい。(祖母のリュックを開ける)

父 大丈夫かい？

娘 おばあちゃん、汗。

父 急だったからね随分、あの坂は。

祖母 大した坂じゃない。人生の上り坂に比べれば。

…思えば色々あった。焼け出されるように、上京したのが五十年前。おじいさんと出会ったのもあの頃ね。めまぐるしく時代は動いたわ…。

母 (薬を渡し)はい、お義母さん。

父 無理させちゃったかな。こんなに歩くとは思わなかったからね。

祖母 断る訳にはいかないでしょ。素敵なレデイが誘ってくれたんだから。

母 すみません、この子がわがまま言ってる。

娘 だって、おばあちゃんと一緒に来たかったんだもん。

父 ホント、おばあちゃん子だな、エリコは。

母 お水いります？

祖母 またゲートボールしようね。エリ。

娘 おばあちゃん、弱いんだもん。

母 でも、いいものですね。都会を離れて、雄大な自然に包まれるのも。私、何だか、鳥のよう。空に放

たれた鳥の気分。谷間のユリ、小川のせせらぎ、夏

草の匂い。生きているのね、みんな。人間の営みな

んで、ちっぽけなもの。自然の一部に過ぎないのよ

ね、私達。そんな風に思えて来るわ。

父 やっぱり正解だった。いいな、山は。汗を流し、

寄り添い歩く。青葉の茂る森、手をとって渡る小川、

青空へ昇る歌声。家族だよなあ。家族以外の何者で

もない。いいじゃない。幸せだよ、俺たちは。

娘 ねえ、写真撮ろうよ。

母 いいわね。大自然をバックに。家族で。ねえ、あ

なた。

父 え、うん…。

娘 撮ろう撮ろう。

リュックからデジカメを取り出す。
祖母、それを手にしようとして、

祖母 どれどれ。

母 お義母さん、何です…？

祖母 三人並んで。ほら、親子水入らずで。

母 いえ、お義母さん入って下さい。

祖母 いいのいいの、私は。

母 駄目です、駄目です。お義母さんが入らなきや。

祖母 遠慮することないでしょ。

母 家族なんですから。一緒に入りましょうよ。

娘 エリ、おばあちゃんと一緒に写りたい。

母 この子もこう言ってますし。エリ、おばあちゃん

と写真撮りたいって。この間、プリクラ撮ったでし

よ？ あれからこの子騒いじやって。またおばあち

やんと撮りたいって。

娘 撮りたい撮りたい。

祖母 そうなの？ しょうがない子ね。

母 さ、あなた、お願い。

父 ああ…。

祖母 どちら、エリ。真ん中においで。

母 駄目ですよ。いいんです、いいんです。エリなん

か端っこで。ほら、そっちらからおばあちゃんと腕組

んで。まあ、いいわね。私も組んじゃお。(父に)あ

なた。

父 うん…。

祖母 エリ、真ん中がいいんでしょう？

娘 ううん。

祖母 お姫様は真ん中なんですよ？ いつも言ってる

じゃない。

娘 エリ、成長したの。お姫様なんかじゃなくていい。

本当に素敵な人は、でしやばったりしないの。エリ

ね、大人の女になったの。

祖母 そうなの？ さすが小さなレデイね。

母 あなた、お願い。

父 うん…。

母 あなた。

父 はいチーズ。

カメラのフラッシュ。
と共に、祖母、倒れる。

母 ……やったわね。

娘 死んだの？

母 エリ、触っちゃ駄目。こっちおいで。…いいのよ。

これで良かったの。こうするしかないの…。成仏し

て下さいね。

娘 ねえ、もう撮らないの？

母 遊びに来たんじやないのよ。写真なら、うち帰っ

てからいくらでも撮ってあげるから。

娘 つまんない、うちで撮っても。あーあ。エリ、真

ん中で写りたいのに。

母 魂抜かれてもいいの？

娘 やだ。

母 エリ、分かってるね？ 三人で写真撮る時はね、

娘 分かつてるよ。

母 駄目よ。知らないおじさんに声かけられて、写真なんか撮っちゃ。絶対、真ん中は駄目だからね。人間ね、端にいるのが一番。真ん中になんかいたら苦勞するだけよ。賢く生きなさい。

娘 でもあたし、初めて見た。みんなに自慢しよ。

母 駄目。お話しないうって約束でしょ？

娘 作文に書くの。宿題。

母 馬鹿。駄目駄目！ エリちゃん。おばあちゃんは

何で倒れたの？

娘 心臓の発作。

母 いつ？

娘 みんなとはぐれた時。

母 そうね、おばあちゃんが一人の時。誰が見つけたの？

娘 私。お花積んで帰ったら、おばあちゃん倒れてて、

で、お母さん達呼びに行ったの。

母 そうね。お巡りさんにも、ちゃんとと言える？

娘 頑張る。

母 いい？ 自然によ。あんた泣いてればそれでいい

から…。あなた、大丈夫ね？

父 …。

母 ちよつと、どうしたの？

父 何だろ、俺って奴は。小さい頃さ、どんな大人になるか、思いを馳せては希望に震えた。きつと自分

分はなる。立派な人間になる。そう信じて疑わなかつた。夢はひとつ消え、ふたつ消え、残ったのは、

よりによつてこんな醜悪な姿。愕然とするよ。顔向け出来ないよ、あの頃の自分に。俺は俺を裏切つて

しまったんだ。すまない、タケオ少年。すまない！

母 あなた、しつかりして。必然。すべては仕方ないこと。あなたが悪いんじゃないわ。世の中よ、悪いのは。社会よ、憎むべきは。あなたは順応しただけ。悩めばご飯食べれる？ 生活が楽になる？ しまいなさい。鍵をかけなさい。心の奥底に押しやり

ましよう。

父 エリ、お前はどうかんだ？

娘 何が？

父 最愛の祖母を今、まさにこの手で葬った。父さん

のこの罪を許すかい？

娘 いいんじゃない。別に。こういうの自然の摂理

て言うんでしょ？ 学校で習った。

父 おいおい。そんな風に育てた覚えはないぞ。

母 何言ってるの。しつかりしてるわ。エリちゃんは

ほらあなた、行きましよう。のんびりしてると見つかつてしまいうわ。年金もない、保障もない。私達は

何とかしなければならなかつたの。生き延びる為の

選択よ。

父 そうだな、生活のためだ。母さん、すまない。(行こうとする)

祖母 (起き上がる) 何が？

父 うわ！

母 お義母さん!? …何ですよ！ ちゃんと撮ったの？

父 撮つたよ！ 見ろよ、ほら。三人。(デジカメの画面を見せる)

母 どうしてよ？

父 知らないよ。

娘 これは？

母 どれ？

娘 このちつちやいの。

父 え？ あ！

娘 人じゃない？

父 四人写つてたんだ！ 見ろ。ここ。

母 何よ、このおじさん。

父 向こうで、山登つてる。…ほら、あの人だ。

母 あのおやし…。

祖母 タケオ、何がすまないの？

父 え…。すまない…。いっそのこと、ここに住まない？ 家族で。田舎…。

祖母 どうする家は？

父 だよね…。

問。

祖母 どうしたの？

母 でも、本当にいい景色ですね。ねえ。

父 ああ、ほんとな。

母 …写真撮りましようか？

祖母 また？

父 もう一枚位。

祖母 私撮るよ。

父 いい、いい！ 親子三人なんて、ありきたり、ありきたり。

母 …どうします？

祖母 (カメラを)ちよつと貸して。

父 え？

祖母 見て。野鳥が。

父 ああ…。(渡す)

祖母 カメラを構え野鳥を追う。

母 どうするの、あなた。

父 あわてるな。チャンスは巡ってくるさ。

母 (写真を撮っている祖父に) 結構ですね、お義母さん。

祖母 (夢中である)

母 分かったわ。山を降りましょう。

父 そうだな。今日はもう帰ろう。

母 違うわよ。途中、ベンチがあったでしょ？ あそこ

ここで撮るのよ。

父 おいおい、あそこはまずいよ、人目につくよ。そ

れに、やっぱり良くないんじゃないか。

母 今更何言ってるの。

娘 ねえ、ヒマ。

母 エリ、来なさい。

三人、丸くなり何やら話し込む。

写真を撮っていた祖母、カメラを彼らに向け、

祖母 おーい。三人そろって、チーズ。

一瞬、笑顔をつくるも、ものすごい勢いで三人、避ける。

父 撮らなくていいんだよ！ こんなのに！ こんな三人、撮るな！

母 私、真ん中！ 真ん中！

父 カメラ。母さん、カメラ、俺が持つよ。

祖母 いいから。

父 いったらば、俺が撮るよ。

祖母 タケオ、いいのよ。遠慮しなくても。

父 え？

祖母 あなた、昔から優しい子だったからね。私も家族の写真に入れてあげたい。そう思ってるんですよ？

父 ありがとうね。あたしはね、その心遣いだけで満足だから。

父 いや、俺は……

祖母 私は知ってるよ。あなたは昔から心優しい子だった。万引だって、連絡受けた時。あんたが十七の時。母さん分かった。これは何かの間違いだった。母さんだけは分かった。……私はね、一度だってタケオを疑ったことはないんだよ。

父 母さん……

祖母 タケオ。えりが曲がってるよ。(直してやる)

父 曲がってないよ！

祖母 え？

父 曲がってない！ 曲がってないよ！ (泣く)

祖母 どうしたの？

母 何でもないんです。ほら、あなた、しつかり。

娘 パパ、自然の摂理。自然の摂理。

父 (泣きながら) 曲がっているのは、僕の心だ。

母 ちよつと、あなたってば。……もう、だらしがないだから。

祖母 ごめんね、サチコさん、こんな子で。

母 え、いえ、何を言うんです。

祖母 あなたみたいな人が一緒になつてくれて、本当に良かったわ。

母 嫌だわ。お義母さん、あらたまつて。

祖母 いつもご苦労様ね。あたしもつとお手伝い出

来たらいいけど、年だから。サチコさんには頭が上がりないって。おじいさんといつも言ってたのよ。本当に感謝してるわ。

母 お義母さん……

祖母 あらあら、サチコさん。ボタン外れてるよ。

母 外れてません。……私は、人の道から外れてなんか

いない。そうよ。

祖母 サチコさん？

母 優しくしないで！ お義母さん、優しくしないで

下さい。私は、もう決めたんですから……

祖母 あら、野鳥が二羽。

写真を撮りに行く祖母。

母 あなた、駄目よ。私達にも生活があるんだからね。

父 分かっている。分かっているよ。

母 とにかく、三人固まるのはやめましょう。チャンス

スを待つよ、いい？

娘 (突然) ねえ、私はどこにいればの？

母 え？

娘 真ん中は駄目だから、一人でおつかいに出たの？

母 何を言ってるの。

娘 私がいつかなくなるのも自然の摂理なの？

祖母 命短し、恋せよ乙女。

三人……

そこへ、男が現れる。

男……あら、松原さん？

父 え、野鳥さん？ どうしたんです？

男 それはこつちの台詞ですよ。何でまた。
父 いえ、うちは家族で。ハイキングでもつて。
男 奇遇ですな。うちですよ。おーい。こつちだ、こつち。

女、息子、登場。

女 もう、どんどん行かないでよ。

母 奥さん、どうも。

女 あら、奥さん。やだ、こんな所で。

母 偶然つてあるのね。

男 遅いよ。そんなペースで歩いてたら日が暮れちゃうだろ。

女 あなた、勝手に先に行かないで。マキオのことも考えなさいよ。この子、お腹痛いつて何度も言っているのに、それを。

男 どうせ仮病だろ。大体な、お前が甘やかし過ぎるんだよ。

母 マキオ君、具合はどうなの？

女 ええ、多少は落ち着いたみたいで。あ、この間はどうもすみませんでした。重かったでしょ、マキオの荷物まで持つて来てくれて。

母 いいえ、いいんですよ。

女 エリコちゃん、いつもごめんね。(男に)学校のプリントとかいつも届けてくれるの。

母 マキオ君、今日はお出かけ？ 良かったわね。

女 いい空気を吸って、家族でのんびりしたらどうだつて。そうカウンセラーの先生に言われまして、いい思い出にもなるからつて。

母 そうなの。

女 でもこの人つたら、カメラ忘れて来ちゃったんですよ。せっかくの思い出も台無し。

男 おいおい、俺、聞いたぞ。さっきのコンビニで。

『写るんです。』買おうかつて聞いたら、お前、いない、つて言つただろ。

父 まあまあ、冴島さん。気持ちですから。こういうのは。気持ち。わざわざ写真に収めなくても、心に残せばいいんですよ。写真が何です。

祖母 私、撮りましょうか。

母 お義母さん！ 余計なことしないの！

父 いいんだよ！ 撮らないで！

祖母 昔、ちよつとやつてたの写真。コンクールにも入選したのよ。

父 そうかもしれないけど…。やめよう。

祖母 どうして？

父 どうしてつて…。

母 冴島さんにご迷惑ですよ。

父 せっかくのプライベートを。

祖母 分からないわ。何が迷惑なの？

母 お義母さん、わがままおっしやらないで。

男 あの、せっかくですから、撮つてもらおうかな。

女 マキオ、いらつしやい。

母 駄目駄目駄目駄目！ 駄目！

父 駄目なんです。駄目なんですよ、これ。

男 何が？

父 いえ…。

母 ほら、お義母さん、やめましょう。冴島さん、い

ぶかしい顔をさつてるわ。すみません、ほんと。

女 いえ、別に。

男 うちとしても記念になりますし。

祖母 笑つて。

父 駄目です！ 駄目駄目！

母 お義母さん！ いい加減にして下さい！ お願いだからやめて。

男 何なんですか？

母 いえ、駄目なんです。

女 そんなに否定なさるんですか、うちを。

父 そういうアレじゃあ、全然。

女 そりゃあ、この子のことで色々煩わせたかもしれない。でもうちの子は、被害者です。学校でも、誰にも助けてもらえずに苦しんでいたんです。向この親御さんにしてみたら、被害妄想かと思われるかもしれない。あれ位がいいじめか、なんておっしゃる方もいますけど、この子、苦しんでいたんです。お宅にも、エリちゃんにもお世話になりました。感謝してました。申し訳なく思つていました。それをこんな。嫌だつたなら、はっきりそう言つて下されば。

母 違います。そんなんじゃないんですよ。

女 汚らしいですか。こんな家族、写真に収めるのもはばかられますか。エリコちゃん。ごめんね、マキオがいつも。

娘 いえ…。

女 いいんです。ひつそりと、息を殺して生きていきますから。世間様ににらまれないように。

父 困つたな。奥さん、そんな風に思い詰めないで…。

母 じゃあ、全員で撮りましょうか？

父 いいね。母さん、それだ！ みんなで撮りましょう！ 三人より、大勢の方が、ね！ さ！

全員、並ぶ。

祖母 はい、笑って。

女 マキオ。写真撮るのよ。おいで。マキオ？

マキオ、行ってしまおう。

女 マキオ！ 待ちなさい。

女、行く。

男 すみません。

と、男も後を追う。

呆然とそれを見届ける一同。

父 あらら。

母 大変ね、何だか。

父 奥さん、大分きてるな。

母 だって、離婚寸前ですってよ。

父 そうなの？

母 中原さんがね、言うのよ。中原さん、お隣でしょ？

聞こえてくるんだって。込み入った所まで。奥さん

の方がマキオ君引き取るとか、そんなことまで。

父 あらら。

祖母 はい、チーズ。

ものすごく必死に逃げる三人。

父 止めて下さいよ、いきなり！ もう駄目！ 没

収！

祖母 何で怒るの？

父 エリ、お前、持つてなさい。(カメラを渡す)

娘 え、私が殺すの？

祖母 殺す？

父 馬鹿。

祖母 殺すって？

父 え、何がです？

母 ……ねえ、あなた、何だか。

父 さん？ ああ、ひと雨来そうだな。

母 さっきまであんなに晴れてたのに。

父 行くか？

母 そうね。

父 戻ろう。母さん、行くよ。

祖母 どこに？

父 車に。帰ろう。

母 お義母さん、歩けます？ ……エリコ。

娘 うん。

三人、退場。

娘、行こうとした所に、マキオ、来て。

娘 マキオ君？

マキオ ……

娘 あ…雨…。ねえ、降って来ちゃったよ。

マキオ ……

娘 どうしたの？

マキオ ……姉ちゃんさ、

雨。

辺り暗くなる。

マキオ ……姉ちゃんさ、何してんだよ。

娘 ……

マキオ ねえって。

娘 何。

マキオ どうして帰って来ないんだよ。

娘 仕方ないじゃん。

マキオ どこにいるの？

娘 秘密。企業秘密。姉ちゃんね、忙しいの。…わ、

見て。すごい雨。

マキオ 終わったんでしょ、おつかい。

娘 さあ。

マキオ 何が欲しいの姉ちゃん？ みんなさ、待つ

てるんだよ。姉ちゃんのこと。

娘 出た、日本人。みんな待ってる、そのみんなって

誰？ みんななんて人いないんだよ。

マキオ 俺が待ってる。

娘 ……お母さん達、元氣？

マキオ さあ。

娘 さあつて。

マキオ 人のことなんか分かんない。

娘 あんた、相変わらず暗いんだね。

マキオ ひとりだよ、俺。姉ちゃんがおつかいに出て

から、ずっと。

娘 いるでしょ、友達とか。

マキオ 誰のこと？

娘 いないの？

マキオ 夏休みにはいた。

娘 どんな子？

マキオ 夏休みの友。

娘 あんまいい友達じゃないね。

マキオ でも一緒にいてくれる。

娘 …。

マキオ …覚えてる？ 俺の初代友達。ロボットだよ。

リモコンで動くやつ。…あれね、おかしいの。アニ

メだとね、主人公が乗り込んで操縦してるんだよ、

ロボット。でもね、俺が持ってたやつはリモコンな

の。遠隔操作なの。…俺、思ったよ。無表情なロボ

ットの顔見て思った。中に入れてくれないんだなっ

て。遠くから見ただけなんだって。いつも通りの

自分。遠くから見ただけ。

娘 だから捨てたの、あれ？

マキオ 死んだと思ったから。

娘 修理すれば動いたかもよ？

マキオ だつてずるいから。一度死んだのにまた動く

なんて。

娘 姉ちゃんの秘密その一。

マキオ 何だよ。

娘 姉ちゃんの正体は、実は、弟を思いやる優しい女

であった。

マキオ は？

娘 知ってる？ あのロボット、いつから動かなくな

ったか。

マキオ さあ。

娘 あんたの誕生日じゃなかった？

マキオ 何で？ (知ってるの？)

娘 死んだと思ったでしょ？ あれ、電池抜いただけ

だったんだよ。

マキオ 姉ちゃんがやったの？

娘 泣いてたねえ、あんた。

マキオ ふざけんなよ、何だよ、それ。

娘 …あれ？ 雨止んでない？

マキオ え？

娘 止んだね。あたし、行かなきゃ。…(話題を戻し)

あんたのためを思ったの。あんなのとばっか遊んで

るからさ、こりやいかん、と思つて。でもあんたも

あっさり騙されたよね。「ロボット、死んでる！」。

そう叫んだんだよね、あたし。そしたら真つ青にな

つちやつて。いいね、イノセントで。

マキオ …ひでえ。

娘 感謝しないさい。ロボットのお葬式、参列してあげ

たんだから。(行こうとする)

マキオ どこ行くの。

娘 どこ行こつかな。

マキオ 俺も行く。

娘 駄目。

マキオ 何で。

娘 何ででも。マキオ …何かね、俺、分からないんだ。どうしたら

いいか。

娘 みんなそうだよ。そういう時もある。

マキオ いないんですよ、みんななんて人。俺は？ 俺

の場合、どうしたらいいの？

娘 …じゃ、またね。

マキオ 姉ちゃん。

暗転。

二 忠臣蔵ブルース

夜。薄暗い部屋。

この作品の体裁は時代劇であるが、服装はジャージ

などのラフなもので構わない。

座して、ろうそくの炎を見つめている男1。神妙な

ふすまを叩く音。

男2(声) おい、いるか？

男1 誰…？

男2(声) 俺。入るぞ。

男2、入って来て、

男2 よ。

男1 おう。

男2 何？ 寝ないの？

男1 ちよつとね。

男2 冷えるな、こつちは。

男1 どうしたの？

男2 いや、灯りついてたから。(俺)便所の帰り。

男1 知らないよ、見つかったも。
男2 広くねえ、ここ？ あ、ふすま新しいし。何だよ、俺の部屋よりいいじゃん。なあ、部屋、交換しない？
男1 ……
男2 (叩く)
男1 何？
男2 眠れないんだろ。
男1 別に。
男2 どうすんだよ、今からそんなんで。そうだ、お前、うお座だろ？ 明日いいよ。ラッキーカラー、青だつて。身につけるよ、青いもの。あ、貸してやるうか、ハンカチ。
男1 (上の空で) うん…。
男2 (叩く)
男1 痛…。だから、何？
男2 隙あり。
男1 え？
男2 斬られるぞ。そんなんじや。
男1 ……
男2 ま、あれか。ひとつの手かもな。早く死んどくのも。あんま長く戦うのもしんどいし。お前、どうする、一番先にやられたら？ かつこ悪くねえ？
男1 いいね、何か…。
男2 は？
男1 楽観的というか、度胸あるというか…。
男2 ま、半分死んでるようなもんだからな。刀を持つた時点でさ…。
男1 まるで月だね、今夜の。
男2 え？

男1 欠けてる。半分しかない。
男2 ほんとか。
男1 きれいだよね。半分死んでるのに…。
男2 言つてたぜ、大石さん。明日は月あかりが味方だから、よく揮んどけて。
男1 うん。
男2 で、よく覚えとけて。最後の月かもしれないから。
男1 ……本当にやるんだね。
男2 え？
男1 討ち入り。
男2 おいおい。怖気づいちゃった？
男1 そうじゃないけど。
男2 義士だろ？ 侍だろ、お前？ え、赤穂浪士さんですよね？
男1 そうだよ。
男2 恐いんですか？
男1 恐くありませんよ。
男2 今、どういとお気持ちですか？
男1 いや、もう、やるしかないなつていう。
男2 吉良上野介に一言。
男1 いや、とつてやるぞ、つて。首を。
男2 逆にとられる可能性つていうのは？
男1 ま、ゼロではないかな、と。
男2 それは忠義が足りないから、と捕らえてよろしいでしょうか？
男1 は…？
男2 いや、もしかして、浅野家への思いが薄れちゃつたのかなあ、と。
男1 馬鹿にしてる…？

男2 嘘、嘘。冗談。
男1 俺だつてさ、この日を待つてたんだよ。無念晴らしたいよ。
男2 熱くなるなよ。
男1 してやるさ、討ち入りでも何でも。俺だつて出るんだよ、その気になればさ！
男2 だからさ、討ち入るんだよ。俺達。
男1 ……
男2 明日な。うん、明日…。
男1 耐えて来たんだよ、今日まで…。
男2 分かつてる。俺もそう。みんなもだよ。でも、大声とかやばいな。夜中だし。
男1 ごめん…。
男2 こつこそ…。
風が木戸を揺らす。
男2 俺らだけじゃないな。風も震えてる…。
男1 うん…。
男2 今日さ、歩いたじゃん。江戸の町。
男1 うん。
男2 震えた。カルチャーショック。やべえな、江戸。
男1 俺も。驚いた。
男2 やつば違うな、都会は。
男1 俺、芝居見ちゃった。歌舞伎。
男2 でき、見た？ 吉良の屋敷。
男1 見た見た。すごいね。
男2 住みてえ！ みたいな。
男1 門番とき、ちらつと目が合つちやつて。超緊張した。

男2 あの槍。京都の何とか、みたいなやつだろ？ 多分。

男1 うんうん、そんな感じ。

男2 で、門番な。出てるよ、体鍛えてるオーラ。

男1 只者じゃないよ、彼は。

男1 それに設備も。やばいよ、あれ。

男2 な。守るぜ！ つて感じで。あんな所討ち入り

出来んのか、みたいな。

男1 ……え？

男2 いや、するけど…。

男1 うん…。

男2 するよ、討ち入り…。しなきや始まらねえし…。

男1 ……。

男2 今、何時？

男1 結構、夜中。

男2 眠くない？

男1 眠い？

男2 ちよつと。

男1 寝てるのかな、門番も。

男2 どうだろう。

男1 ……庭にさ、花壇あったでしょ？ 小さな。

男2 屋敷？ 吉良の。

男1 見えたの。チラッと。隙間から。

男2 うん。

男1 考えるんだ、色々。

男2 何を？

男1 きつと水をやってるのは、女だ。屋敷の。彼女は花が咲くのを楽しみにしている。女は春を待っている。……踏んじやまずいよな。でも俺、闘いながら、足元注意できるかな。とか。

男2 何だそりや。

男1 いや、思ったの。ただ。

男2 そう。

男1 そんなだけ。

男2 ……そう言えば、変な奴に会った。昼間。

男1 どんな？

男2 男。花の種を持ち歩いてるつていう。何かね、花の咲く場所を探してるつて。

男1 ロマンチックだね、何か。

男2 咲かないつて。

男1 え？

男2 咲かないんだつて、どこ行つても。大抵芽も出ずに終わり。運良く芽が出ても、カラスにつつかれるか、すぐに枯れるか。水をやったら溺れてしまふし、日にあたれば溶けてしまふ。……んなこと言つてたな。

男1 ……それで？

男2 最初はたくさんあったけど、もうあんまないつて。種。数える位しか。だからさ、もつたいないじやん。

男1 うん。

男2 もつたいないから、ひとつだけ、ここにも蒔いたつて。

男1 咲いたの？

男2 蒔いたばつかだから。

男1 そつか。

男2 頼まれた。明日、水をやってくれつて。断つたよ、もちろん。討ち入りだし。

男1 ……本当に斬るんだよね。

男2 え？

男1 人。

男2 何だよ。

男1 いや、何か…。

男2 斬るんだよ。いや、斬られんのかもな。

男1 血とか出るのかな？

男2 出るだろ。斬られたら痛いし、死ぬ間際すげえ声とか出すんだよ。きつと。俺も知らねえけど。

男1 ……ねえ、俺、武士かな？

男2 武士だろ？

男1 武士なのか。

男2 何で。

男1 武士つてさ、もつと強いもんだと思つてた。心も体も。

男2 うん。

男1 今日も言われた。なつてないつて。覚悟が足りないつて。足手まとい。

男2 俺だつて。

男1 賭けてるみたい、みんな。最初に死ぬの俺だつて。当たりかもね、それ。

男2 ……。

男1 何でなつたかな、武士なんて。

男2、立ち上がる。

男2 来い。

男1 何？

男2 来いよ。練習。明日の。敵だと思つて来てみるよ。

男1 え…？

男2 はい、刀抜きました。ほら、お前も。

男1 うん…。
 男2 来い。
 男1 お命頂戴。
 男2 足りねえ、氣迫が。
 男1 お命頂戴。
 男2 まだまだ。お命をもらうんだよ？ 並のことじやねえ。腹から。
 男1 お命頂戴！
 男2 夜だから…。もうちよい抑えて。
 男1 どつちな…。
 男2 行くぞ、狼藉者。(斬りにかかる)
 男1 …。(何もせず斬られる)
 男2 …よけなきや。
 男1 うん。
 男2 よけるとか、立ち向かうとかしなきや。斬られるがままか。
 男1 ごめん。
 男2 いや、死ぬの、お前だよ？ …来いよ。稽古ん時みたく。
 男1 …。
 打ち合い。
 男2 (打ち合いを止めて)甘い。脇。腰も。注意されてるとこじゃん、いつも。
 男1 そうだけど。
 男2 出来るよお前。思い切りだな、あとは。
 男1 …。
 男2 うわ、貴様！ (自分から刀にあたりに行き倒れる)

男1 え？
 男2 こしやくな。返り討ちしてくれるわ。うわ！
 (倒れる)
 男1 何してるの…？
 男2 勝ってるんだよ、お前。…何たる豪傑。これが赤穂浪士。とうていかなう相手ではない。
 男1 俺が？
 男2 出来るな、お主。これが赤穂の力か。
 男1 いやいや。
 男2 照れるな。はい、バシツと。
 男1 何？
 男2 決め台詞。言つてやれ。
 男1 …どうもありがとう。
 男2 違うだろ…。しないはず、感謝は。何に対して？
 男1 闘ってくれて…。
 男2 んな奴はいねえ。敵だから俺。他。
 男1 他？
 男2 はい、斬られました。…やるな、お主。
 男1 …地獄で待ってるぜ。
 男2 駄目駄目。それ、死んでる、お前。負けた方が言うこと。
 男1 よく分かんないよ。
 男2 考えとけ。よし、とどめ。
 男1 え。
 男2 斬れ。
 男1 誰を？
 男2 俺を。
 男1 どうしても？
 男2 お前が斬られるぞ。
 男1 とどめは明日に…。

男2 馬鹿。待っててくんないぞ、敵は。
 男1 …。
 男2 おい。
 男1 …何で？
 男2 あ？
 男1 何で討ち入るのかな、俺達？
 男2 …。
 男1 分かんないよ、よく。自分のしてること。…夏の午後って感じ。
 男2 何だそりや…。
 男1 何だそりや、だよ。討ち入りに成功しても、切腹。死ぬ。斬られても死ぬ。何だそりや。意味分かんない、俺には。何ひとつ…。
 男2 闘わないとな。でも。
 男1 何で？
 男2 少なくとも選んだ。俺達は。こういう生き方を。それと死に方を。
 男1 何で闘うんだろ。
 男2 男だし。
 男1 …。
 男2 闘うんだよ。男じゃん。武士じゃん。…手段がいる。生きるには方法が必要だ。俺達は男で、武士を選んだ。刀の輝くのおんなじ色。そうでしかない。俺らの命の色は。そういうことだろ、きつと…。
 男1 …。
 男2 さ。斬れよ。
 男1 …。
 男1、男2をゆつくりと斬りつける。

男2 ……はい、死にました。
 男1 ……
 男2 (斬られた体勢のまま) どう？ 人を斬った感想
 男1 よく分かんない…
 男2 斬ったら振り返って言うんだよ。敵ながらあつ
 ばれ。
 男1 うん…
 男2 油断すんなよ。敵は一人じゃないからな。
 男1 うん。
 男2 生きて帰ったら、家族によろしくな。
 男1 こっちこそ。
 男2 俺が死んでも構うな。敵を斬れよ。
 男1 分かってる。
 男2 明日だぞ。
 男1 うん…
 男2 ……寝るか。いい加減。寝坊とか洒落になんない
 し。
 男1 ……昼間の男さ。花の種の。その人、武士？
 男2 分かんね。
 男1 見てみたい。
 男2 普通だよ、別に。
 男1 いつ咲くのかな。
 男2 え？
 男1 花。その男の。
 男2 さあ。
 男1 咲くかな。
 男2 咲くよ。
 男1 そう？
 男2 咲くよ。だって、種があるんだ。芽が出ない種
 って何だ？ それ、種とは呼ばないだろ？

男1 うん。
 男2 種は花を咲かせるために存在する。だから咲く。
 芽が出て、葉脈が走って、花は咲くよ。
 男1 うん…
 男2 ほれ、寝るぞ。月も拝んだことだし。
 男1 半分しかない。
 男2 充分だ、半分ありや。
 男1 何で半分しかないのかな。
 男2 斬ったんじゃないかねえの、お前が。
 男1 俺達、間違っただけよ。
 男2 知らねえよ。
 男1 どうなるのかな、俺達。
 男2 寝ようぜ、もう。

暗転。
 半分の月が彼らを蒼く照らす。

三 青空デイジー

洋風の部屋。
 ブロンドの髪の少女が飛び出してくる。

それを追って父、登場。見るからにジェントルな出
 で立ち。
 どうやら舞台は西欧のようだ。登場人物の四人は、
 当然、外国人なのであろう。
 つまりこれは、にせ翻訳劇。

デイジー 嫌い、嫌い！ パパなんか大嫌い！
 父 すまなかつたよ、デイジー。この通りだ。おいで。
 デイジー 知らない！ パパなんて知らないんだか
 ら！

トム(兄)、来て、

トム まだおかんむりかい？ 小さなプリンセスは？
 父 おい、トム。からかいに来たのなら、お引き取り
 願うよ。

トム 違うよ、パパ。魔法をかけた来たのさ。ご立腹
 の姫君にね。

父 そうかい。効き目のある奴を頼むよ、魔法使いさ
 ん。

トム おチビちゃん、テーブルのピザが泣いてるぜ。
 冷めちゃうよお。早く食ってくれよおって。

デイジー いらない。

トム アップルパイもカンカンさ。せっかく焼けたの
 に、食べてくれやしない。だってさ。

父 それにシナモンのクッキーも待ちわびてる。さあ、
 行かないか、デイジー。

デイジー 嫌。

父 叱られちゃうよ、クッキーに。パパはどう謝れば
 いい？

デイジー シャワーでも浴びたら。

父 どうして？

デイジー 水に流してくれるかも。

父 まったく。せっかくのパーティーが台無しだな。

トム (観客にやれやれ、デイジーの奴、ひどく不機嫌さ。おっと自己紹介が遅れたね。おいらはトム。

戸棚の戸に、無駄遣いの無で、トム。嘘。普通にト

ム。ごめん、ごめん。でも、嘘もつきたくなるさ。

どうしてかって？ デイジー。あいつのせい。そ

デイジー ってのは僕の妹。おしやまで生意気な、お

てんば娘。今日も朝から雨模様のおくれつ面。何で

ふくれつ面かって？ そいつはね、

母、来て、

母、来て、

母、来て、

母 デイジー、一体どうしたの？

デイジー ママ！ ジョディは？ ジョディはどこ？

母 まあデイジー、何て顔。大声をあげて。

デイジー ママ答えて！ ジョディをどうしたの？

トム (観客に) ジョディって言うのは、わが家で可愛

がったシエパード。ふかふかのタオルと、ママの

ミートパイが大のお気に入り。そう、デイジーの奴、

犬のジョディが消えちまったことで、おかんむりな

のさ。

母 ジョディは今、スコットおじさんの所よ。

父 病気にはね、田舎の新鮮な空気が一番なんだ。人

間も犬もね。

デイジー いつも一緒なの。ジョディと私は。

母 いいの？ ジョディが病気のままで？

デイジー それは…

母 ね。だったら悲しむことないわ。元気になったら
会いに行きましょう。

デイジー でも、一言くらい私に言うべきよ。ひどい
わ。

母 ほら、ジョディに笑われるわよ。

父 いつもの青空に戻っておくれ、デイジー。スコッ
トおじさんはね、大の動物好きなんだ。

母 きつと気に入ってくれるわ。

トム でもおじさん、射撃の名手だよね。

デイジー …じゃあ、ジョディは？

トム 撃たれてるかもな。

父 トム！

母 さあ、みんな待つてるわ、デイジー。何て言った
って、今日の主役なんだからね。

父 そうだ。準備勝なんてすごいことだよ、デイジー。

母 ママも鼻が高いわ。

父 来年のコンクールは当然優勝だな、デイジー？

デイジー パパ、お願いがあるの。

父 何だい？

デイジー 私は今日までいい子にしてたわ。そうでし
よ？

父 そうだね。

デイジー レッスンにも毎日通った。だからピアノも
上達したの。コンクールで準備勝出来る位に。

父 誇りに思うよ、パパは。

デイジー パパってうんと頼りになる。力持ちで、優
しくて、ハンサムで。

父 おいおい、何が言いたいんだい？

デイジー 連れてって。パパの車で、

母 行かないわよ。

デイジー ママ。

母 わがままもいい加減になさい。あなたのためのパ
ーティーなのよ。

トム もうすぐ時間だぜ。小さな音楽家さん。

父 そうだ。お前のピアノをみんなに聞かせてあげな
きゃ。

デイジー ピアノなんてうんざり！

母 デイジー！

デイジー こんな家族なんかじゃない。パパもママ
も考えてない、私のことなんか。不協和音よ！ ち
っとも奏でてない、ハーモニーを！

母 あなたの音よ。ずれてるのは。

父 よし。じゃあ、やり直した。家族の絆を結び直そ
うじゃないか。

デイジー 手遅れよ。

父 どこから始めればいい？

トム バイエルから始めなさい。

母 いいのよ。今日はママのお化粧道具使っても。

父 だつてさ、プリンセス。

デイジー いらない。

母 日に日に可愛げがなくなるわね。この子。

トム クレシエンドでね。

父 やめないか、キャシー。

母 我慢の限界よ。私だつていらいらしてきちゃう。
いい加減。

トム 四分の一の拍子でね。

父 トム。黙ってなさい。

母 この子はト音記号よ！ へ長調よ！ ううん、メ
ソフォルテ！

父 そうだ、ママの香水は？ つけたがってただろ？

いいんだよ、今日はつけても。パパもこれにやられ
ちまったのさ。素敵な香りだろう？

トム 臭いよ、ママ。

父 トム！

トム そうじゃなくて。煙臭い。

父 おい、何だい、この匂い？ キッチンじゃないか？

母 大変、チキンが！ あなた、どうしましょう！！

父 火を止めないと。

母 止める？ 駐車場はいっぱいよ？ どこに！？

父 消すんだ！ 火を消さない！

母 消すのね？ OK！

母、退場。

父 やれやれ…。ママにはいつも度肝を抜かれるな。

チャイム。

父 おっと。来たかな。きつとデビット達だ。…二人
とも、きちんとあいさつするんだぞ。

父、退場。

デイジー、父を見届け、どこかへ行くこうとする。

デイジー トム、私のリュック、返して。

トム どこへ行くんだい？

デイジー 決まってるじゃない。出て行くの、このう

ちから。

トム 何度目の家出だったかな。今度のは。

デイジー 今度の本気よ。もう帰って来てあげないの。

トム 二時間で戻って来たのは、いつのだったけ？

デイジー 分らず屋のパパ。度肝を抜くママ。もう
うんざり。

トム 嫌いかい、パパ達のこと？

デイジー 嫌いじゃないわ…。でも、二人は私のこと

愛してない…。

トム どうして？

デイジー 愛してないのよ…。だから、コンクールも

見に来てくれないの。パーティーなんかいい。見守

つていて欲しかったの。私。愛してないからよ。

来なかったのは。

トム 知ってるかい？ この前、パパったら、いたん

だぜ。リチャードの写真館に。どうしてだと思う？

デイジー さあ。

トム デイジー。君のコンクールの写真をとってもら

うためさ。

デイジー え？

トム パパ達、仕事でいけない分、大奮発したのさ。

リチャードは腕のいい写真家だからね。きつときれ

いに撮ってもらいたかったんだ。…知ってた？

デイジー ううん…。

トム きつと二人とも、君の思う以上に君を愛してる。

パパなんて心待ちにしている。写真の現像。

デイジー パパ…。

トム 心配性のパパ。

父(幻) デイジー。歯周病対策に、よく歯を磨きなさい

い。

トム ちよつぱり厳しいママ。

母(幻) デイジー。女はね、土俵に上がってはいけな
いの。

トム どうだい、デイジー？

まるで名画のように、思い出が駆け巡る。

父 デイジー、赤ペン先生が待ってるんじゃないか？

母 何度も言ったでしょ？ 女子十二楽坊にヴォーカ

ルはいないの。

デイジー パパ、ママ…。

父 デイジー。本当にそれは、東京ドーム3個分なん

だね？

母 デイジー。朝までやるって言ったでしょ、生テレ

ビ。

父 ここはスクイズでつないでくれるかい。デイジー。

母 デイジー、フルCGのビデオレターはやめなさい。

父 ドラゴンボールは七つだ。八つめのそれは何だい、

デイジー。

母 それはモー娘。の仕事でしょ、デイジー。

父 本当に第二ボタンなのかな、デイジー。

母 小さい秋見つけたですって？ 見せてみなさいよ、

デイジー。

父 デイジー、すぐに記者会見を開きなさい。

母 白木屋は二次会。ちゃんと言ったはずよ。デイジ

い。

父 おいおい、もうソロデビューかい。バンドはどう

した、デイジー？

母 ニューヨークに行きたいの？ 行きたくないの？

父 デイジー、もう五分だ。3分クッキングはまたに

しないか。

トム 二人とも、デイジーのことはつか見てる。嫉妬
しちゃうな。

デイジー ……

ここからは、トムも参加。母の幻影となる三人。

母 こら、デイジー。どこに向かってズームインしたの。

トム こらデイジー。サビしか知らないなら歌わないの。

父 デイジー。消防署の方から来たって言ったのよ、販売員は。

母 どうしてマナーモードになかったの。

トム 珍プレーだけじゃなく、好プレーも見なさい。

父 届けを出すのは市役所。ここは区役所。

母 絵にも描けない美しさって言ったでしょ、デイジー。

トム これのどこがチェーン店な訳？

父 ピラフかチャーハンか、はつきりなさい。

母 掛け金はゼロなの。掛け金は。

トム あなたでしょ？ BOAに振り付けしたの。

父 歩行者天国ってそういう天国？

母 みんなの砂場でしょ。

トム 歌詞カードはどうしたの、歌詞カードは。

父 それをかた結びって言うの。

母 どうして七並べしか出来ないの？

消え去る幻影。

デイジー ごめん、ママ…。まだ、ボーカルのルール、覚えてないや…。

トム さ、行けよ。チキンが黒焦げだ。ママ一人じゃ

大変だぜ。

デイジー うん。

デイジー、退場。

父(声) トム！ おいで。デビットおじさんにごあいさつだ。

トム はあい！ (観客にやれやれだな。デイジーの

奴、ようやく青空に戻ったみたい。ま、今夜のパー

ティーが盛り上がることだけは間違いないね。え、

僕？ 僕だって愛されてるさ。その証拠に、チキンは僕の好物だからね。(肩をすくめウインク)

去つていくトム。

暗転。

四 ダイニングキッチン

平凡な主婦の家、借家。

煙などが立ち込める中、この家に似つかわしくない男が立っている。

主婦はひとり、男を気にするでもなく受話器を握っている。

精 聞こえるか？ 私はエリウスの精。お前の願いを

叶えに来た。さあ、3つの願い事を言ってみろ。何でも思い通りに叶えてやろう。

主婦 ……

精 貴様は誠運がいい。私が地上に降り立つのは千年

に一度。さあ、何が欲しい？ 永遠の命か？ それ

とも偉大なる名譽か？ 何でも言うが良し！

主婦 やめよっかな…。そうだよ、迷惑だよ。 (受話器を置く)

精 女よ、貴様の願いは？

主婦 (受話器を持つ) いや、言おう。言わなきゃ駄目。

さなえ、フアイト。

精 女よ、願いが叶うのだぞ！

主婦 オークー、5つ数えよう。そしたら掛けるよ。

精 5つ？ 願い事は3つだ。

主婦 5、4、3… (受話器を置き) あーやっぱ10！

10 数えよう！

精 10!? 強欲め！ 欲にて滅ぶは己自身！ 恥を

知れ、恥を！

主婦 やっぱ駄目！ (精にすがりつく形で) 出来ないよ…。

精 おい…。

主婦 私が馬鹿だったの。私ね、分数の足し算も出来ないの。あなたにたてついたりして、どうかした。

ごめんね。ねえ、ごめんね!? (胸に顔を埋める)

精 …… (何か言おうとするが)

主婦 何てね…。 (寝転んで) あーあ。

精 女よ、驚かせたようだな。

主婦 今電話してもね。仕事申だし。

精 無理もあるまい、突然のことだ。

主婦 昼から外回りか。(ハッと立ち上がる)あれ、

2丁目って近くだよな。(外を見て)まさかね。いいないない。(と言いつつ探す)

精 もう一度言おう。私はエリウスの精。お前の3つ

の願いを叶えに来た。

主婦 しつかりしろよ、さなえ。あんた2つも年上なんだよ。2つも。

精 2つだと? 願いは3つ叶えてやろう。

主婦 ホント馬鹿。あんたね、ひとつもいい所ない。

精 1つだと? 案ずるな、女よ。私を恐れるな。

主婦 やめやめ! 落ち込んでても仕方ない。やめよう、考えるの。

精 分かんぬだ。3つと言ったら3つだ。

主婦 (外を見ながら)何で言っちゃったかな...。でも

あんなに怒んなくてもさ...

精 もう良い。女よ、私に委ねろ。

主婦 ...やだ。嘘でしょ?

精 時は来た! 暗雲立ち込めるあの空を見よ! 我

に宿りし力は天へと満ちた! さあ、女! 1つ目の願いは!

主婦 洗濯物取り込んで。

精 え?

主婦 お願い、降って来ちゃった。

精 1つ目の願いを...

主婦 干せない訳、今日も? (精に)ごめん早く。

精 願いを...

主婦 わ、何、この降り方。(精に)ねえ早く!

精 ...

精、出て行く。

主婦 午後から晴れるんでしょ? 気合入れて予報しろつーの。(電話が鳴る。戸惑いながら出る)もしもし? ...こちらの電話番号は現在使われて...、

いるわよ。何? はい起きてます。昼ですから。

...え、待つて待つて。反省? 私が? 知らなかったあ。反省つて悪くない方がするんだあ。へえ...

何よ。悪くないじゃん、私。て言うか仕事申でしよ? いいの? うん、私も忙しいし。はいはい。じゃあ

ね。(電話を切る)

精、登場。

精 ...半渴きだぞ。

主婦 (うずくまる)何なんだ、私は...

精 いや、雨の仕業か。バスタオルなどが湿気で...

主婦 どうして素直になれないの? ねえ、こんな自分

分ていいの? とにかくたたんた。...下着は二段目の引き出しで良かったか?

主婦 駄目だよ! 駄目に決まってんじゃんバカ!

精 (勢いに気おされ)すまない...。三段目と迷った。

やり直す。

主婦 もう遅いよ! 何あの電話。

精 遅いと言われなくても...。では、どうすればいい?

主婦 死んじやえ! お前なんか死んじやえ!

精 困る! それは困る! 我々は永遠なる一族。そ

れだけは出来ない。

主婦 素直じゃない...(雑誌に手を伸ばす)あーあ...。わ、もう離婚するんだ。まあね、馬鹿そうだもん、

この女。でも男つて好きなのよ、こういう女。

精 あ... 主婦 そう言えば、うちの女。好きじゃん、こいつ。

うわー、思い出した。ケンカしたもん。こんな女のどこがいいのよ! みたいな。はは。結婚する前だ。

良かったなあ、あの頃は...。そうそう、私もちよつと目指したんだ。甘える女。(思い付いて)甘えてみるつてどうかな...? (精相手に)たー君。さっちゃん、悪い子だったね。

精 ? 主婦 考えてなかった、たー君の気持ち。さっちゃん、

反省。ううん、何も言わないで。悪い子だったさっちゃんから、プレゼントがあります。たつ君...。(キ

スの体勢へ)

精 ...!?

主婦 違う、キヤラじゃない! さなえの「さ」は、

さばさばの「さ」!

精 貴様! 気安く私に触れるとは! 女として許さんぞ!

主婦 駄目! 素直に謝ろう。

精 不愉快だ! 非常に不愉快だ!

主婦 (精に)「ごめんなさい。あなたの気持ち考えて

なかった!」

精 ...え?

主婦 「私が悪かったの。ごめんね、わがまま言つて」

精 いや、分かれば、別に。

主婦 「許してくれる?」

精 だから、いいよ。

主婦 「いつからすれ違っていたのかな？」

精 え？

主婦 「覚えてる？ 出会った頃のこと」

精 覚えてるけど…

主婦 「忘れてた、あの頃の二人」

精 もう…？

主婦 「来月で丁度、8年だよ」

精 8年？

主婦 「忘れずにいようね、あの頃の気持ち」

精 (考え込む) 8年…？

主婦 あれ…？ 何か忘れてる…？

精 もう良い。貴様の気持ちはおおよそ分かった。さあ、次なる願いだ！ 天地を司る精霊の名にかけて、

貴様の願いを叶えよう！

主婦 え、何だろ…？

精 女よ！ 2つ目の願いは！

主婦 やば… 止めてきて！

精 ん？

主婦 火かけっ放しだった。コンロ！ コンロ！

精 いや、2つ目の…

主婦 早く！ 焦げちやうから！ 火止めて！

精 だから2つ目…

主婦 火！ 火！

精 …

精、退場。

主婦 もー油断するとこれだ。…「ごめんね、あなたの気持ち考えてなかった」。よし。(電話をかける)

…え、何で圏外？ あり得ない。充電してないとか？ 部長にケータイ取り上げられた？ ないない。え、だとしたら…。避けられてる？

精、登場。

精 …カレーか。

主婦 そつか…。そういうことか…。

精 弱火でいいんだ、もつと。

主婦 気付かなかったよ。

精 だろう？

主婦 この頃何かおかしかったもんね。

精 まろやかさに欠けたんじゃないか？

主婦 変だった、あなた。

精 強火だから。

主婦 煮え切らない態度。

精 強火だから。

主婦 いつもと違う態度。

精 強火だから。

主婦 何だか、最近、冷たかった。

精 それは冷めただけ(笑)。少々味見させてもらった。中々じゃないか。隠し味の、香ばしいあれは何だ？

主婦 女だ…。

精 え？

主婦 他に出来たんだ、女が。

精 入れちやうんだ、女とか…。カレーに…。

主婦 三人目じゃん。許せないよ。

精 あ、三人も？

主婦 うちに連れ込んで。シャワーなんか浴びて。

精 あ、洗って。

主婦 湯船にまで浸かった。

精 あ、煮て。

主婦 悔しい…。殴ってやったのに、血が出るまで！

精 あ、だからコクが出るんだ、あんなに。

主婦 きつとあの女だ。別れたって言ったのに…。いいよ。そっちがその気なら。離婚！ もう全部終わり！…でも待って。ヨシオはどうなるの。来年少

学校にあがるのよ。これから色々大変なのに。(精に)ねえ、どういこと!?

精 え？

主婦 幸せにするって嘘だったの？ 口先だけ？ 私の望みとか、願いなら、何だって叶えてあげるよ、なんて。

精 だから、叶えているではないか。

主婦 嘘つき！ 何ひとつ叶えてもらってない！

精 叶えたではないか、お前の望みを！

主婦 あなたのこと信じてた！ ついて行こうと思っ

た！

精 そう言われても…。

主婦 これからどうするの？

精 叶えるよ。もうひとつの願いを。

主婦 ヨシオだつて、もう五つよ？

精 1つ！ あと1つだ。強欲な女め。

主婦 もういいよ。顔も見たくない。

精 何故!?

主婦 どうせ覚えてないでしょ。明日よ。結婚記念日。

精 ねえ、忘れてるでしょ!?

主婦 記念などない何も！

主婦 私だけ苦労して、自分以外の女と暮らすなんて。勝手過ぎない？ …何でこんなことになっちゃっ

たかな……。ちよつと甘えただけじゃん。ダイニングキッチン欲しいなって。それだけじゃん……。

精 ……分かった。参考までに私の偉業を話そう。過去に飢えた村を救ったことがあった。人々は奇跡と喜び、私を崇めた。決して洗濯物など取り込まなかった。またある時は、いくさを勝利に導いた。人々は私を神とまつたものだ。無論カレーの火など止めない。

主婦 どうでもいいよ、もう。キッチンとか。あなたは他の女と……。

精 そうか……。貴様が女であることを忘れていた。永遠の美か？ 高価な宝石か？ 言ってみる。若かりし日の貴様にだつて戻れる。時間とて戻すことは可能だ。

主婦 やだ、もうこんな時間……？

精 さあ、女、言え！ 最後の願いを！

主婦 あの悪いんだけど、

精 何だ？

主婦 ヨシオのお迎え、行つてもらえる？

精 ヨシオ？

主婦 ちよつと遅れちゃつたかな。保育園、もうすぐ終わるからさ。

精 待て待て待て。待てちよつと。

主婦 遅れるとうるさいの。分かる？ 花組の教室。

精 欲しくないのか、永遠の美が！ 輝く宝石が！

主婦 それと、体操着持ち帰るの忘れないで。先週も洗つてないの。

精 貴様の望みはそんなものか!? 大王にだつてな

れるのだぞ！

主婦 違う違う、体操着。

精 大王に！

主婦 体操着。

精 大王に……

主婦 たいそうぎ。

精 (あきらめたように) 体操着……。

主婦 そうそう、よろしくね。

精 分かった。(主婦に手をかざし)最後の願いが叶うと同時に、私は貴様の記憶から消え去る。私の姿を知る者は、誰一人とていなくなる。……ヨシオのお迎えを終えたらな。

精、むなしく去る。
電話が鳴る。

主婦 (恐る恐る出て)もしもし……。うん……。今までありがとう。あなたに会えて良かった。……うん、別に。え、どうして？ 離婚じゃなかったの？ ……うん、何でもない。分かった。うん。待ってる。(切る)良かったあ。(しばらくクツションなどに顔を埋めて)あ、あ、あ、たっ君、明日食事行こうって。覚えてた、結婚記念日！ 愛されてた、私！ ……つて、え？ 誰に言ってるんだろ？ 誰かいなかったっけ……？

玄関で音。

主婦 帰ってきたかな？ あちやー、掃除してない。

お迎えを終えた精が走り込んで来る。

精 やはり納得がいかん！ いいか、私はエリウスの

精！ 古代人は私をこう言った。天より降りし光、それは……！

主婦 (廊下へ)ヨツ君！ 玄関でクツク脱ぎなさい！

精 ガツデム！

急速に暗転。

五 豊の午後

夏。日の傾き始める頃。畳の部屋。

洗濯物をたたむ母と、その息子・豊。

豊

すぐだよ。来年には絶対。本当だよ。迷惑かけねえから。

母 あんた、どうすんの、そんなに。

豊 いいじゃん。

母 よかないわよ。どうせ、あれでしょ。ろくでもないことでしょ？

豊 違えよ。

母 どうだか。

豊 あるんだろ、まだ、あの、俺の。
母 どうだったかねえ。
豊 なんだよお。信用しろよお。

母、立ち上がり、洗濯物を持って奥へ。

豊 なあつて。

母 忙しい、忙しい。(退場)

豊 …あり得ねえ。

豊、大の字に寝そべる。
しばらく天井を見つめ、

豊 (天井に) ただいま…。帰ったぞ、今…。

母、再び来て、

母 何すんのよ。

豊 え？

母 だから何するの、そんなに。

豊 寄付。ユニセフに。

母 (腹を蹴る、と言うか片足で乗る)

豊 ぐ…。

母 心配してるの。一応、我が子なんだから。こんな

んでも。

豊 …何キロあんだよ。

母 …ろくに連絡もよこさないで…。ちゃんと食べてる

の？

豊 前にさ、映画に出てなかった？

豊 タイタニック沈めたでしょ？
母 (再び乗る)
豊 ぐえ…！ …死ぬから！
母 とにかくね、うちにはないからね。そんなお金
ま、あつてもあんたには貸さないけど。(再び洗濯
物をたたみ出す)
豊 知らねえだろ。俺、勉強始めたんだぜ。
母 自分の愚かさについて？
豊 資格とるの！ パソコン！
母 (洗濯物の靴下を見て) あら、穴あいてる。
豊 どこもかしこもハイテクだよ、世の中。そんな時
代にさ、必要でしょ資格位。
母 そうみたいね、今は。
豊 でもあれだ。勉強するには、頭に血を巡らせなき
やいけない。頭に血を巡らすには、食べなきゃいけ
ない。食べるには、何が必要？ そう、金！ 金な
の！
母 やっぱり先立つものがないとね。
豊 だろ？
母 何だかんだ言つて必要よね、お金は。何するにも。
豊 そうなんだよ。お金つてのはそういうもんなのよ。
母 で、何で？
豊 え？
母 何でそんなにいるの、お金？
豊 …ファンデーション変えた？
母 ごまかすな、馬鹿。(叩く)
豊 っ…
母 寝ほけたこと言つて、どこにあるの、そんなお金。
豊 貸せよ。八十万位。気持ち良く。
母 出せる訳ないでしょ。こつちはこつちで大変なの

に。何に使うの、大体。
豊 …恵まれない子供達に、
母 (叩く) 恵むな。恵んで欲しいのはこつちだよ。
豊 息子の頼みだろ。
母 わざわいばつか持ち込んで…。
豊 悪魔みたいに言うなよ。
母 …もうさ、増やさないで、これ以上。心配の種を。
豊 …。
母 (洗濯物をたたみながら) ねえ、あんたのでしょ、
これ。
豊 あ？
母 高校の時の。
豊 ああ…。そうだったけ。
母 着てるのよ、あの人。あんたのお下がり。
豊 そう。
母 何でもいいのよ、着れるなら。病院位だからさ、
行く所なんて。
豊 …どうなの、今。
母 痩せた。びつくり。結婚前の体形だね、あれ。人
間ね、食べなきゃや痩せるわ。
豊 食つてねえの？
母 だって気が引けるでしょ、私だけ食べるの。
豊 ふん…。
母 会った？
豊 いいや。
母 お父さん、心配してたよ。あんたと会うの。
豊 何で。
母 え、いじめられるとでも思ったんじゃない？
豊 いじめるか。
母 仕事辞めて三ヶ月でしょ？ その間、言つてたよ、

ずつと。豊に何て言おう。豊が来たらどうしよう、
みたいな。
豊 何を気にしてんだか…。
母 減らしたのよ、薬。これを機に軽いのに変えてい
こうつて。お医者さん。
豊 そんな強い飲んだか？
母 みたいね。…もうね、自信なくしちゃつて。恐れ
てる訳よ、世界全部を。たばこ買いに行くのも、ち
よつとした冒険みたい。
豊 は…。
母 こつちも減入つて来るよ。そりや痩せるよ、私も。
豊 大変だ色々…。
母 だからね、沈めてる場合じゃないの、タイタニツ
クとか。
豊 我が家の方が。沈んでるのは。
母 分かつてるじゃない。うちにはお金がない！な
いの。
豊 断言されても。…親父、上？
母 寝てるんじゃない。
豊 え、俺の部屋は？
母 今？ 物置き。
豊 ひでえ。
母 あんた、ろくに帰りもしないでよく言うよ。
豊 え、じゃあ部屋のもの？
母 捨てたよ。あらかた。
豊 おいおい、俺の思ひ出。
母 思ひ出じゃ食べていけませんから。退職金も無限
にある訳じゃないし。
豊 あ、出たの？
母 一応ね。涙、涙。すずめの。

豊 なるほどね…。退職金ね…。
母 (凝視)
豊 何？
母 …狙つてるね？
豊 狙うかよ！ 俺だつて、心配してる訳。長男とし
て。
母 疑いビーム。
豊 出すな出すな。…いや、奥さん。(俺意外と考え
てますよ、家のこと。
母 どうだか。
豊 あれでしょ？ 典子、行くんでしょ大学。東京の。
母 受かればね。
豊 じゃあ、親父と二人だ。春から。
母 まあね。
豊 可愛そうに。
母 何が？
豊 孤独な老夫婦。
母 バカ。ようやく降りるよ、肩の荷が…。日舞習う
の。日舞。
豊 あ、そう。
母 これからは趣味に生きようかな。なんて。
豊 …。
豊、立ち上がる。
母 どこ行くの？
豊 いや、ちよつと。(何となく辺りを見渡す)
母 何？
豊 …。別に…。
母 (察して)ないよ、通帳なら。

豊 …どこ？
母 預かつてるから。私が。
豊 毎年貯金してたじゃん。随分あるはずだろ、幼稚
園からだから。お年玉の半分だよ？ あれ、何年
分？
母 あれは、あなたの将来のためのお金。
豊 だから使うんじゃない。将来の俺が。
母 もつと先。もつと先の将来。結婚でもしてご覧
かかるんだよ、お金。式挙げるだけで、いくらする
と思つてるの。
豊 今！ 大切なのは今なんだよ！ …俺はね、より
良い自分にステップアップする為、日夜、励んでる
の。パソコンだつてそう。考えてんだよ、俺は。
母 何も出来ないでしょ、あんた一人じゃ。私がどん
な思っているか、知ってる？
豊 …そう言う風に子ども扱ひするけどさ、そうやつ
て俺の自立を妨げてんだよ？
母 …何よ、それ。
豊 自分の保護下に置いときたいんだよ。俺を。共依
存つてやつたね。ああ、私がいなくてやつぱり駄目
なのね。そう思いたいんだよ。世話を焼くことが自
分のアイデンティティになつてるの。要するに。
母 …屁理屈。
豊 俺は自分の意志で生きたいの。分かる？ 俺はね、
自己決定の精神を尊重して欲しいの。
母 よく言うよ。
豊 あ？
母 何ひとつ続いた試しがないじゃない。そろばんも
水泳も、空手も、結局すぐ辞めちゃうんだから。
豊 古いことを…。

母 どうせ行っていないでしよ、英会話も。高いお金を払って。

豊 行ってる。

母 これからはグローバルなんではよ？ そのグローバルさんの英会話。入学金出したの誰？

豊 通ってるって。俺、グローバル。全然。余裕で。

母 アメリカの首都は？

豊 え？

母 首都。アメリカの。

豊 …ワトソン。

母 抜けてる、シンが！ ワシントン！

豊 惜しいじゃん。

母 …何、ワトソンで？ ノはどこから来た、ノは？

豊 サービスだ、俺なりの。

母 あれこれ投げ出して…。(真似て)何か違う。向いてねえ。合わねえ。…何するの中途半端。そういう精神がシンをとっちゃうの、ワシントンから。要するに芯がないんだよ、芯が。ノは粗末のソ。お粗末なの、人間が。

豊 上手いこと言ってるじゃねえよ…。

母 何でこんな風に育っちゃったかねえ…。(穴あきの靴下をとり)穴があつたら入りたい。

豊 …。

母 白状なさい。どうするの、お金。

豊 もういい。

母 嫌だよ。訳も分からず渡せないよ。

豊 だから、いらねえよ、もう。

母 何かあつたの？

豊 …。

母 何で黙っちゃうの？ …変なのにひっかかったん

じやないでしょうね？

豊 …違えよ。

母 脅されてる？ やくざ？

豊 ないない。

母 困るよ、そんなの…。

豊 だから違えよ。

母 じゃあ何？

豊 …商売。

母 …。

豊 始めよつかな、って。ネオ屋台的な。

母 屋台…。

豊 あるじゃん、路上で、車で、売ってる奴。食いもんどか。あれ。

母 やるの？

豊 出来んだよ。車があれば。あと簡単な許可で…。

豊 楽させてやるよ。もうけてさ。資金があるんだよ。

母 美容師は？

豊 え？

母 美容師はどうしたの？

豊 …いや、左利きだからハサミが。

母 せっかく行つたのにな、専門学校。

豊 たつた一年だし…。

母 ストリート・ミュージシャンは？

豊 …路上、寒いから。

母 デザイナーは？

豊 …ちよつとね。

母 落語家は？

豊 …あれはね。

母 やり手の弁護士は？ 国家機密を握る謎のスパイは？

豊 …それは、はなつから。

母 あんたはあれだね、夢の墓場だね。色んな夢を葬ってきたね。

豊 …悪いかよ。駄目かよ、夢見ちゃ？

母 別に。

豊 豊の「ゆ」は夢見る青年、の「ゆ」だ！ 大きな夢を見てんだよ！

母 た。

豊 え？

母 豊の「た」、は？

豊 た…、高くはばたく！ そうだよ、俺ははばたくんだよ、高く！

母 はばたくんだ。その為に必要だったんだね。お金。

豊 そうだよ…。

母 か。豊の「か」。

豊 …母さん、助けて。

母 馬鹿…。

問。

母 (立ち上がる)知らないよ、もう。大人なんだから…。

母、退場。

豊、何となく穴あきの靴下を手にとる。

母、再び来て、

母 食べるでしょ、夕飯。コロッケとかでいい？

豊 ああ。

母 あんたさ、いるの彼女？

豊 いたら何だよ。
母 ちゃんとご飯食べてる？
豊 一応。
母 もしね、結婚してくれる人がいたら、式くらい挙げてやりなさいよ。
豊 はいはい。
母 嬉しいもんなの、女は。あれしてあげなさいよ、式で。だっこ。おひな様の。
豊 おひな様？
母 おひな様だっこ。
豊 お姫様だっこ。
母 おんなじよ。
豊 だっこしづらいだろ、おひな様は。
母 で、どうするの、これから。
豊 うん。
母 ひく訳？ 屋台を。
豊 …いよつかな、うちに。
母 え？
豊 実家で気ままに。そういうのも有りだな。
母 邪魔邪魔。ラブラブ・ライブの邪魔。ないよ、居場所なんか。
豊 ラブラブどころじゃねえだろ、親父。
母 ほら。(手を出す)
豊 ああ。(穴あきの靴下を渡す)
母 後で声かけてあげて。お父さん、降りて来たら。
豊 俺も寝てよつかな。親父と。
母 あんたね。
豊 嘘、嘘。ま、何とかなるだろ。生きてれば。それなりに。
母 ねえ、頼むよ。しっかりね。

豊 心配すんなって。
母 穴だらけなんだよ、世の中。せめてあんた、落っこちないで。それだけでいいから。ちゃんと生きてさえくれれば。いいんだからね、それで。
豊 おうよ。
母 分かっているのかね、この子は…。
暗転。

六 桃

薄暗い部屋。ある夫婦の家。
中央にぼつんと少年。
彼と距離を置き、取り囲むように、少し離れて大人達。男、男2、女。それぞれ散り散りに、距離をとる。暗澹たるムード。
部屋の隅では、少女がうつむいている。
男2 困りましたねえ…。
一同 …。
男2 奥さんが拾われて、で、ご自身でお切りになつた訳ですよ。だとしたら、そうはいかないんです。法的に見て、これ、責任は、生じてしまうんですよ。一同 …。
男2 似たような事例ですと、ええと、二年程前ですか。同じような夫婦がいらつしやいました。それから様は、よく話し合いになって、今でも円満に生活なさってます。そういつたご夫婦もいらつしやるんです。どうか悲観なさらないよう。…確かに、稀な例ではありますが。
女 どうしたらいいんでしょう…。
男2 ええ…。
女 うちの場合は、どうしたらいいんでしょうか？
男2 どうなさるにしても、役所に届けをお出し下さい。それからです。こういった問題は厄介です。女でも、私、分からなかつたんです。確かに切りました。私です。包丁です。私が切つたには違いありません。でもそれは、そうしないと中が分からなかつたから。そうじゃありません？ 外見だけでは分からないから。分からないから…。
と、女、泣き出す。
男2 分かります。非常に分かるんですが、それでは、奥さん、やはりあなたに責任があると言わざるを得ない。
女 先生、お願いします。私、何でもします。どうか力になって下さい！
男2 困ります。私は、法律に基づいたアドバイスを差し上げるだけでして。具体的には。
女 私、どうすれば。

男2 とにかく、時間が必要です。どうか気を強く持つて。…いいですか？ もちろん彼にも人権はあります。極力、彼の言うことを聞いてあげて下さい。これはお二人に生じた責任なんです。

女 でも、どうしろと言うんです？ そうそう、いませんでしょ？ 鬼とか。

男2 ええ。鬼はなかなか…。

女 出来ませんでしよ、退治とか。鬼の。それと…団子？

男2 団子です。

女 きび団子？ そんなもの見たこともないのに。私、どうしたらいいの…。

男2 奥さん。

男 どうして拾って来たかな…。

女 え？

男 桃だよ、桃。どうしてそんな大きな桃、拾おうなんて思っちゃったんだよ。

女 それは…

男 百歩譲ってさ、どんぶらこどんぶらこ流れて来た桃をさ、拾ったはいいよ。けど、どうして、切っちゃうかな？ 何か出て来るとは思わなかったか？

女 え？

男 ……

の中に震える少年がいた。ぴんと来たね。ああ、拾ったなって、直感的に分かったよ。…何。桃、珍しかった？ 期待しちゃった、中身に？ 求めてた、素敵な出逢いとか？ …どうして切ったよ？ 相談もなしに。

女 ……好奇心でした。

男 馬鹿。馬鹿だ。ウルトラ馬鹿だ、お前は！ 常識的に考えてさ、大きな桃が流れて来たら、警戒するだろ、普通さ？

男2 ご主人、過ぎたことです。これからのことを考えましょう。

男 あんたはいいよ。他人事だ。

女 あなた、失礼ですよ、先生に。

男 税理士かなんか知らないけど。

男2 弁護士です。

男 ……大體さ、よく来れたよね、うちに。すごいよ。すごい度胸ですよ。ほんと。驚くよ。

男2 こいつに頼まれたからね。

男 こいつって言うなよ。お前が。

一同 ……

少女 あの。

少女 ……

少女 あ、すみませんでした。私のせいで。本当にごめんなさい！

女 やめて。いいのよ、ママちゃんは悪くないの。ごめんね、わざわざ来てもらって。

少女 私が…、私が余計なこと言わなければ。

少女 すごく助かったわ、ママちゃんのおかげで。…夕暮れ。私は何だか疲れていたの。お買物の帰りだったわ。ただ疲れていた。ぼんやりと川の流れる様

を見てる私。どうかしていたのね。夕焼けに照らされて揺れる、あの愛らしい果実を見た時、思ったの。拾わなきゃ。ただそう思ったの。気付いた時には、二丁目の郵便局の前でした。うちまで運んでいたの、大きな桃を。でもね、困ってしまったの。三丁目へ抜ける坂の前で立ち往生していた。この急な坂を一人で登るのは無理。かと言って、別のルートはない。とても困っていたの。そこにね、ママちゃんが来た。

少女 学校の帰りでした。とても重そうだったんです。おばさん、ひとりで。

女 手伝います、ってママちゃん言ってくれた。わざわざうちまで来てくれるから、お茶でも飲んで行つて、私…。

少女 私が聞いちゃったんです、おばさんに。中、どうなってるんでしょうね、って。どうしようもないんです、私！ いつもそう。言わなくていいことばかり。余計なことばかり喋って。ああ、もう…！

女 私も見たかったの！ 私だって一人になったらきつと見ていたわ！ 見ていたわ！

わめく少女をなだめ、抱きしめる女。

男 ……マサエ、いいかい。当面はうちで彼の面倒を見る。だがな、一生じゃない。しかるべき施設なり、何なりを見つけて、身の振り方が決まるまでだ。期間限定。これ、ひと夏の思い出。分かっているな。

女 あなた、私、考えたんです。

男 考えるな、頭悪いんだから。

女 考えたんです。頭悪いなりに。今度のことは私の

軽率が招いた事態です、それは間違いないありません。反省して貰います。すみません。でもね、あなた、居直る訳じゃありませんけど、私、思うんです。今度のことは、その、運命だったんじゃないかって。そうじゃありませんか？ この子はもしかしたら神様が、二人に与えて下さったのかも。そんな風に思えてならないんです。

男 つまり？

女 育てましょう。

男 ……

女 あなた、育てましょう。私、何でもする。この子の面倒なら私が見る。あなたは今まで通りお仕事をなさってればいいんです。私が面倒見ますから。あなた、お願い。育てましょう。

男 冗談じゃないよ。仕事も軌道に乗って来た。ようやくだけど、希望の光が差し込んで来た。…どうかしてる。(男2に) お前か。お前が妙なことを吹き込んだのか？ あ？

女 あなた、駄目！ 違います！ 違いますから！

男 俺達に子供はいらない、何度もそう話し合ったはずだ。それをお前

女 分かっています。

男 いいや、分かっているんだよ！ お前は潜在的に欲しかったんだよ、子供が！ だからあんなもの拾って来たんだよ！

女 そうじゃありません。

男 馬鹿にしてたんだな、心の奥底で。子供もつけない俺を、軽蔑していたな？ え、種の保存も出来ない、欠陥人間として見ていたんだろ。うわ。でも当たり前だもんな。欠落抱えて生きてるからね、俺。

女 あなた…

男 いらなんだよ、子供は。いなくていいって、本当にそう思えて来たんだよ。いらぬ、いらぬって。やつと納得したんだよ。

一同 ……

男2 俺、ひきとろうか。

一同 ……

男2 どうしてもって言うなら、俺、この子、ひきとつてもいいよ。

男 何、それ。どういうこと。

男2 何って。

男 意味分かんないよ。どうしてお前がひきとるんだよ。

男2 だって埒あかないだろ。

男 だから何でお前が出て来るんだよ。

男2 見てらんないだろ、こんなの。かわいそうじゃない。

男 何、お前？ 正義の味方？

男2 そんなじゃない。

男 すごいんだね、弁護士って。

男2 これは弁護士として言ってるんじゃない。兄貴、あなたの弟として言ってる。

男 え、お前、引き取ってどうするの？

男2 育てる。

男 一人で？ 出来るの？

男2 出来る。

男 どうやって？

男2 え。

男 どうやって面倒見んだよ、お前一人で。

男2 頑張ってる。

男 どういう風に。

男2 ……その場のノリで。

男 ノープランかよ！ いい加減なこと言うな。

男2 そういう気持ちがあるってことだよ。

男 気持ちなんかいらねえよ。

男2 じゃあ、どうすればさ。

男 どうもすんなよ。つーか来るなよ。

男2 ……俺だつてね、苦しみましたよ。罪の意識っていうの、さいなまれましたよ。自分は最低だ。何度も責めたよ。…俺、自分から言おうとした。信じてもらえないかもしれない。でも謝ろうって。兄貴が帰って来たら言おうって、悩んだよ。葛藤したよ。思いわずらって、夜も眠れなかったよ。

男 眠れなかった？ 寝たんだよ、お前は。

男2・女 (同時に) どうかしてたんだ。／どうかしてました。

問。

男 ……仲いいんだ。二人してどうかしてたんだ。…寝たの、お前らは！ 契つたんだよ、俺のいない夜に。違うのか。え、違うのか。

女 (少女を気にして) あなた、やめて下さい。

男 去年の忘年会、あの時、もう関係してた訳だろ。

俺が尾崎熱唱してる間も、酒こぼしててんやわんやしてる間も、お前ら内心笑ってた訳だ。全然自然だったね、二人とも。おう久し振り、なんて。久し振りじゃねえのに、演技しちゃって。役者だね。…その夜だよ。うち帰ったらさ、見つけちゃったのよ。

酔っ払ってごみ箱けり倒したらさ、出てきたのよ。

最初何か分からなくてさ、触っちゃったよ。食べ物かと思つて匂いかいじやつたよ。何じやこりやあ！叫んだよ。夜中。2時過ぎだよ。そりやあ叫びたくもなるよ。コンドームですよ。この馬鹿の使用後のコンドーム、出てきちゃつてんの。…処理しろつーの！ズサン！寝室のごみ箱はよく倒すから注意しろつーの！馬鹿どもめ！

二人…。

男 弟だつてさ、相手は。何それ。古臭いドラマ。安いAVみたいな二人だよ。中古だよ。中古のAVだな、お前ら。九八〇円で三本買えるよ、こんなビデオならね！くそ！買わねえよ、こんなもの！こんなもの！

男、泣く。泣きながら暴れる。

女 あなた、しつかりして！

男 お前さ！ そうだ、お前、訂正しろよ。寝たんだろ、こいつと。

女 寝てません。

男 寝たんだろ？

女 寝てません。

男 嘘つくんじやねえ！

女 寝てません。心までは。

男 きれいごと禁止！ ここ、観念的な人、立ち入り

禁止！ 寝たの。これ、事実。以上！ 以上を持つて解散だよ、この馬鹿！ 馬鹿！ …こいつとなら

子供つくれると思つたか？ あ？ たまごクラブがすぐ購読出来ると思つたか？ え？

少女（耐え切れず）やめて！ やめて下さい！

少女、耳を塞ぐ。

女 マミちゃん…。

少女 大人の会話、大人の会話…。汚らしいです。

私、中学生だからそういうの分からないけど、嫌です、軽蔑します。ああ、嫌だ。私も大人になるんだ。どうしてこんな風になつちやうんだらう人は。みんな

なそうなの？ みんな汚れちやうなの？ 私は嫌。今日裏の駐車場で猫が交尾してました。…不潔！ 男子が休み時間にエッチな本読んでました。…不潔不潔！ みんな信じられない。汚れてる。…友達のお姉ちゃんが援助交際してるとつて、本人、笑つて喋つてるんです。周りも別に普通つて感じで会話してるし。私だけ？ おかしいと思つるのは。狂つてます、世の中。そうよ、誰が悪いつて、こんな社会にした大人が悪い。あなた達の汚さが、地球上に広がつていくのよ。驚異的なスピードで汚染されているんだわ、地球は！ この黴菌ども！ 悪魔！ うじ虫！

（頭を抱え）大人の会話、大人の会話…。失礼します…。

少女、走り去る。

一同…。

男2（弁護士に戻り）…今日の所はこれで。またおうかがいします…。

と、男2、荷物をまとめ、去ろうとするが、

少年 あの、僕、どうすればいいでしょう。

一同…。

少年 居場所がないんです。

男2 警沢言うなよ。僕だつてないよ。

女 次はいつ来てくれるんですか？

男2 来週か再来週。今度はもうちよつと、細かな話しをしましょう。

男2、退場。

少年に目をやる二人。

男 …鬼退治？ するの、明日から。

女…。

男 大変だ。朝からきび団子、こねくりまわして…。

少年 あの、分かつてます。調子いいですよ。何か桃が流れて来て、こんなのが入つてて、拾つた人に育ててもらう。うわ、調子いいなあ。お調子者ですね、自分。あてどなく川を流れて、フラフラ。…注意書きとかしとけば良かったかなあ。「この桃割るべからず」。一筆入れとけば良かったなあ。

一同…。

少年 いいですか、聞いて。何で拾つたんです？ そつとしておいて欲しかったのに。…桃の中。確かに

苦しいです。でもここも苦しい。…苦しいよ。息が出来ない。僕は溺れていた。一筋の光も射さない、閉ざされた桃。桃つて何色？ ピンク？ うん、外

見はね。でも気持ちはブルー。ブルーな気持ちで漂つていた。桃は熟してゆくの、俺はと言つたらもう腐つてる。腐つてます！ 腐つてるぞ、お前！

男 やめなさい、君！

少年 みなさん、よく生きてますね。何で？ はい、これ素朴な疑問。あなた方の存在意義ってなあに？息を吸っては吐き出す、そういう作業を繰り返す根拠ってなあに？ あるの根拠？ あなた。

女え。

少年 あなたの存在意義は何ですか？

女 私、難しいことは…。

少年 そうですね、そうやって生きていけばいいんですよね。どんぶらこ、どんぶらこ。流されて生きていけば、あなた、誰に拾ってもらいたい訳？ 今、

どこを流れてるの？

一同 …。

少年

どんぶらこどんぶらこ。僕は流れ着きたい場所がある。…姉ちゃん、そこにいるんだろ？

暗転。

放課後という時間を独り占めするかのよう。

大人しく座っていた彼女だが、しばらくすると、耐えられない、と言った風に荷物を持って駆け出そうとする。

そこへ女1がやって来る。

女1

ねえ、席替えしない？

女2

え…？ 松原さん…？

女1

席替え。来ないね？ 先生。

女2

来ないけど…。

女1

私達はさ、この地上に生まれた意味を見出さず、ここにいる訳。学校という監獄。それって、自己の生命の拡張、もしくは発展のために存在するべきでしょ。そうでしょ？

女2

よく分かんない…。

女1

うら若き乙女に与えられた限りある時、それを無駄にしちゃいけないよ。放課後、寂しく教室にいるなんて。どうなの、佐伯さん。

女2

何が？

女1

学校に来て、一人に耐えて、チャイムと共に家路に着く。…花壇の花は咲いたけどさ、もつと他の

大事なものが枯れちゃってたりして。

女2

…。

女1

今日は水あげた？

女2

日課だから。

女1

まずね、問題なのが、溜池。奴があなたの隣を陣取っている、これが不幸の根源だね。よって私は

彼を廊下側に追いやろうと思う。(机を移動)

女2

ちよつと？

女1

(移動させながら)はい、佐藤さん前通過。次は

ワキガの西原前。西原前は異臭のため、すみやかに通過いたします。

女2

松原さん…？

女1

ちよつとどいてね、井上君。はい、終点、廊下側最前列。日当たりが悪うございます。どなた様も

風邪など召さぬように…(ふいに女2には)はい、佐伯さん。

女2

は？

女1

あんたの番だよ。

女2

何が？

女1

席替え。

女2

…ああ、そういうルール？

女1

さあ、根暗女の席替えやいかに。

女2

よく分かんない。

女1

不満とかあるでしょ？ いるでしょ、嫌な奴とか。あ、岬さん。岬さん、嫌いでしょ？ じゃあ、岬さんはこつち。(移動)

女2

(阻止)

女1

…何？

女2

嫌いとかがじゃないの。

女1

嫌いじゃないの？

女2

相手にしてないだけ。むしろ哀れんでるの、あたしは。

女1

あ、そうなの。

七 席替え

放課後。女子高生がひとり。女2である。

屋外で運動部が汗を流す中、教室にたたずむ女。

女1 怒ってないの？
 女2 怒る？ 原始の人間を怒っても仕方ないでしょ。
 女1 お弁当箱、ごみ箱にあったよね、昨日も。
 女2 ないなあ、と思つたらごみ箱にあるから。全然便利。
 女1 観察日記は？ あんたの観察日記。
 女2 私の生顔をどしどし解き明かしていただきたい。
 女1 そうやって我慢するの、これからも？
 女2 我慢ていうか。
 女1 そういう所が面白がられるんじゃないの。澄ましてるから。無理するから。いいんじゃないの、変に意地張らないで。
 女2 ……
 女1 この女もこつちへ、と。(と、机を廊下側へ)
 女2 あの、聞いていい？
 女1 ここでいい？
 女2 松原さん、どうしてここに…？
 女1 いったい、ここで。(机を置く隣がいなくなつちやつたか。隣は…。よし、井上君だ。
 女2 やめて、やめて！
 女1 井上君おいで。
 女2 それは駄目、それは！
 女1 ほら、どいてどいて。ピタツとね、机をくつつけて。(机を置くじゃーん。ラブラブデスク。
 女2 そんな、私、好きとかそういうのは。それに迷惑でしょ、井上君。
 女1 迷惑、井上君？ 「ううん、全然。」
 女2 嘘だ、本当は嫌でしょ！
 女1 「そんなことねえよ」
 女2 井上君優しいから。
 女1 「佐伯だつて優しいじゃん。地味に水やつてるのお前だろ、花壇に。見てるよ、俺は」
 女2 え。
 女1 「何で誰ともしやべらしないの？ なあ、俺とは話してくれるだろ？」
 女2 そんなことしたら、変な目で見られちゃうよ。私なんかといると。
 女1 「いいよ、別に」
 女2 良くないよ。それに井上君、女子に人気あるし。話なんかしてたら…。
 女1 「何か言われるの？」
 女2 ブスのクセに生意気とか。何勘違いしてるの、とか。
 女1 「言わせないよ。俺、そんなこと言う奴、許せねえし」
 女2 でも…。
 女1 「なあ、分かるだろ。俺の気持ち」
 女2 井上君の気持ち…？
 女1 「俺、お前のこと、す…」
 女2 え、す…？
 女1 「す」
 女2 す…。
 女1 すっかりその気だね。
 女2 あ。
 女1 そつか。そうだったか。隣は井上君で決まりだね。
 女2 だから…。
 女1 「佐伯、消しゴム貸してくれよ」
 女2 ……
 女1 「佐伯、俺が隣でもいいだろ」
 女2 ……もう知らない。
 女1 「佐伯、お昼一緒に食べないか」
 女2 ……好きにして。
 女1 「佐伯、泳ぎたいやきくんの二番つて歌えるか？」
 女2 ……歌えない。
 女1 「佐伯、お腹の子、本当に俺の子か？」
 女2 そんなこと言わない！ 私そんなことしないし、そもそも井上君だつて！ 訂正して！ 訂正して、松原さん！
 女1 「佐伯、頼む、墮ろしてくれ」
 女2 バカバカ！
 女1 「なあ、墮ろしてくれ」
 女2 松原さん！ やめてつて！
 女1 「さんまには大根おろしをくれ」
 女2 いい加減にして！ ホント怒るからね。
 女1 あらら、マジだね。
 女2 あのね、松原さん、どう思ってるか知らないけど、好きとか嫌いかじゃなく、井上君はクラスメイトで、それだけなんだから。第一、井上君に迷惑でしょ。約束して、もう言わないつて。そう言うの「冗談でも良くないと思う。ねえ聞いているの、松原さん！」
 女1 大分ほぐれてきたね。
 女2 え？
 女1 いいじゃん。グッド、グッド。
 女2 ……
 女1 どのなの、最近？ みんな受験勉強とかしてるの？
 女2 してる人は。

女1 大変だ、高校生は。佐伯さんはあれ？ やつぱり進学する訳？

女2 ごめん、行くね。

女1 大学に？ へー、やつぱり東京の？

女2 帰るね。ありがと。

女1 ちよつとちよつとちよつと！ 何考えてんの。

女2 いいよ、今日は。

女1 いいって。明日からどうするの？

女2 また、普通に、

女1 我慢するの？

女2 ……

女1 お、この子は？ 花園さん。正義感強いタイプじゃん。(机、移動)「こら、やめなよ、いじめは駄目！」。…そう言うのなの？

女2 ない。

女1 ええと、佐藤さんはどうよ？ 優しい子じゃない。

女2 「佐伯さん、一緒に飯食べない？」

女2 ないない。

女1 「こつちおいでよ。みんなで食べようよ」

女2 だからないって。

女1 「いいよ、遠慮しないで」

女2 ごめん。もう食べちゃったから。

女1 え、早くない？

女2 食べるの早い、私は。(行くとうとする)

女1 ええと…、「へい、佐伯！ 帰っちゃ駄目だヨー！」

女2 誰？

女1 交換留学生のリチャード。

女2 いない！ そんな奴いない、うちのクラスに。

女1 「イルヨ、佐伯！ 待って待って。日本の文化

を教えてクレヨ」

女2 文化？

女1 「イエス。文化。とても興味津々。日本人の心、それと佐伯の心、知りたい」

女2 日本にはね、村の共同体文化があります。

女1 「お、聞きたい」

女2 我々は農耕民族で、小さな共同体の中で充足する関係だから、協調性が強いよね。

女1 「お、素晴らしい」

女2 その分、共同体の色に染まらない奴、(自分を指し)こういう奴ね。こういう奴への風当たりは厳しいの。何か浮いてる奴は村八分なの。以上。

女1 「もつと知りたい！」

女2 自分で調べて。

女1 何よそれ。「おい、何で帰るんだよ」

女2 え？

女1 「お前、一人で何か出来るのかよ？ それじゃ堂々巡りだぞ。」

女2 ……

女1 再び井上君。

女2 ……

女1 ま、井上君は置いといて。先生と会うの何時だっけ？

女2 四時半。

女1 何してんのかな、あいつ。15分も遅刻じゃん。生徒の遅刻にはうるさいのね。職員会議とかかな？ 私の時も結構やつてたんでしょ、毎日。まあ、一週間で忘れられたけど。…座らない？

女2 ……

女1 突っ立ってても仕方ないよ。

女2 ……

女1 「なあ、佐伯」

女2 井上君は黙ってて。

女1 はい。

女2 …正直分かんないや。

女1 何が？

女2 いや、いいのかな、いてって。

女1 何それ？

女2 いいのかな、生きてるけど。

女1 いいんじゃないの？

女2 何か、違うんだよね。不思議なんだよね。みんな、よく普通に笑顔でいられるなって。自然現象って感じで。

女1 うん。

女2 私ってあれかな。不自然のかな。私が生きてるって不自然な現象なのかな、って。

女1 そういうこと考えてるんだ。

女2 口に出すと馬鹿みたいだけどね。

女1 ふーん。

女2 でも、どうなのかな実際？ 60億人、人がいたら、その中の何人は必要なんだろう？

女1 どうか。

女2 だって60億だよ？ 一つや二つあるでしょ。失敗作。

女1 それがあんた？

女2 さあ。

女1 あれだ、神様がつくっちゃったんだ、失敗作。

女2 そうそう。

女1 「やべ、部品一個忘れた」

女2 「もー、よそ見してるから」

女1 「変な人間つくっちゃったよ。参ったな」
女2 「テレビなんか見ながら創るから。どうするんです？」

女1 「放つとこう」

女2 「そのままですか？」

女1 「何とかなるだろう」

女2 「もう、いい加減なんだから」

二人、笑い合う。

女2 ……とかね。

女1 面白いけどね、話としては。

立ち上がる女1。

女1 よし、席を替わろう。

女2 私と？

女1 席替え。こっちが私の席ね。そっちが佐伯さんの席。二人は入れ替わります。座って。

女2 何？

女1 風景が違うの、分かるね？ お。今私が見てるのが佐伯さんが見てる世界。見える見える。(目を閉じて)通学路。黒板。お母さんの料理。…あ、お

じいちゃんの裸

女2 ボケてるの。

女1 時計。休み時間の苦痛。クラスメイト。落書き。現実逃避な妄想…。

女2 普段の風景。

女1 漫画。本。図書館。花。花壇。今日も生き延びた帰り道。花。花壇。

女2 一日の終り。

女1 暗がり。机。高い天井。下の階から聞こえる家族の笑い声。

女2 私の部屋。

女1 窓から見える木、電柱、空…。

女2 つまんない景色。

女1 佐伯さんは？ 何が見える？

女2 ……。

女1 真つ暗でしょ。何もないでしょ。

女2 ……こんな風なんだ。

女1 私の席はそんな感じ。でも佐伯さん、そこ埋まつてるから。あんた座れないよ。

女2 自分の席に着いてろって？

女1 しちゃえば、席替え。

女2 え？

女1 (女2の机を移動)

女2 ちよつと？

女1 うん、ここなら日当たりもいい。座ってみる？

女2 ……。

女1 座らないの？

女2 (座る)

女1 どう？ 違う感じ？

女2 ……あんま、分かんない。

女1 そつか。

女2 でも…何か違うかも。

チャイム。

女1 先生、来るかな？ じゃ、行くね。

女2 ねえ、松原さんてさ、

女1 うん。

女2 三ヶ月前だよな？

女1 うん。踏切で。

女2 そうだよな、私、行ったもんね。お葬式。

女1 死んだね。

女2 何でここに？

女1 いるんだよ。佐伯さんの中とか、そういう所に。

女2 あの、ありがとう。

女1 どういたしまして。

消えてゆく女1。

女2を残し、暗転。

エピローグ 月の影で息継ぎを

雨。

傘を差した一群が通り過ぎる。

マキオ少年がひとり、身を隠している。

一場のあのシーンと同じ状況である。

エリコ、来て、

エリコ ここだと思った。

マキオ …。

エリコ 止まないね、雨。

マキオ …姉ちゃん、俺、ずっとここにいたよ。考えたよ。他にすることないから。考えた。考えたけど、分らないや。

エリコ そう。

マキオ 何でみんな笑うのかな？ 毎日、同じ人と、顔合わせたり、ご飯食べたり、同じことしてる。なのに、何で笑顔なんてつくるのかな。ノルマとかあるの？ 一日何回笑わなきゃいけないとか。笑顔のノルマ。そんなに何が面白いのか、遠くから見ただけど、分からなかった。

エリコ ここから何が見えるの。

マキオ 色んな所。みんなの生活。泣いたり笑ったり、怒ったり悲しんだりする日常。どこかにある風景。どこにもある風景。

エリコ 例えは。

マキオ 桃からね、子供が生まれるの。その子は誰にも望まれていない。桃の外は寒いだけなの。外国のうちも見たい。遠い国。闘いに行く人達もいた。あとね、洗濯物をたたむ人とか…。そういうの。

エリコ で、これからどうするの。

マキオ 姉ちゃんは？

エリコ 私はまた行くつもりだけど。

マキオ 探してたんだ、ずっと。色んな景色に目をやった。でも姉ちゃん、どこにもいなかった。おつかいしてんのかなあ、つて色んな景色に目をやった。エリコ うん。

マキオ もうやめようと思う。

エリコ ここを出るの？

マキオ 出たいけど。

エリコ けど？

マキオ どう思う？

エリコ 何が？

マキオ どうなるかな。俺。

エリコ さあ。

マキオ 分からないよ。意味とかそういうの。でも、何とかしたいし。

エリコ じゃあ、頼んじやおつかい。

マキオ え？

エリコ おつかい。欲しいものがある訳、お姉ちゃん。

マキオ 何。

エリコ ずっと先さ、いつか分からないよ。いつか私と会う時にさ、色々聞きたい訳よ。あんたの話。あの時はどうだった、こうだったって。だからさ、色々仕入れといてよ。何でもいいよ。大変だったこととか、頑張ったこととか、まあ、色々なこと。これ、あんたの任務ね。各種頼むよ、バリエーションに富んだ話を。…でも楽しいのがいいかな、私的には。楽しかったこととか、そういうのを多めで。お願い。

マキオ …。

エリコ 分かった？

マキオ いつになるかな。それ。姉ちゃんと会うの。

エリコ いつかな。あ、出来るだけ遅くね。全然先でいいや。その方が話も多いだろうし。

マキオ うん。

エリコ 駄目だよ、私みたいなのは。急に踏切でとかなしね。

マキオ はいはい。

エリコ 死ぬのはいつでも出来るから。生きとけ、それまで。そういう話。

マキオ うん。

エリコ …ねえ、写真撮っていい？

マキオ いいけど。

エリコ そこ、動かないで。真ん中にいて。

マキオ 真ん中って、俺ひとりじゃん。

エリコ いいね。端っこに隠れてないで、そうやって真ん中にいるんだよ。隅っこにいても、つまらないよ。見とけ、色んなこと。やつとけ、色んなこと。

マキオ 姉ちゃん。

エリコ ン？

マキオ またいつかね。

エリコ はい、チーズ。

フラッシュの光とともに、暗転。

これから、少年の終わりなきおつかいは始まるのだろう。

おしまい。